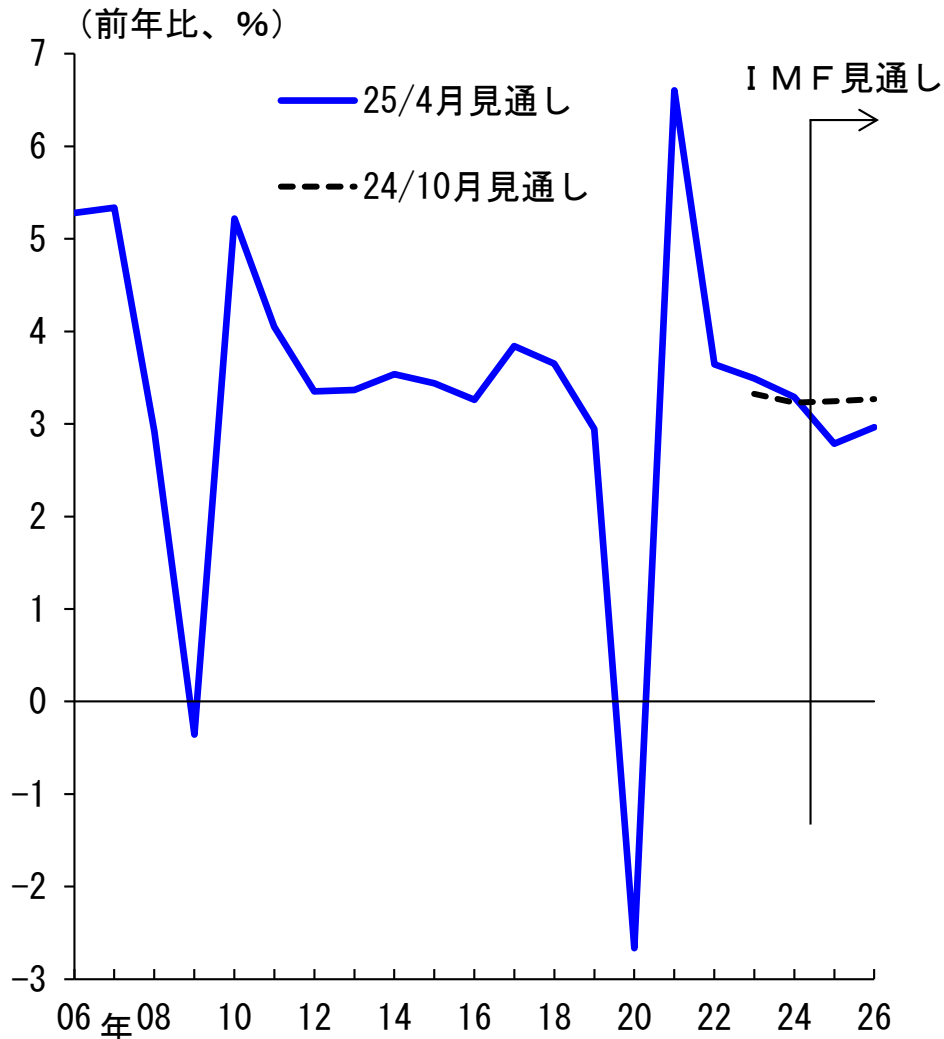


植田議員提出資料

令和7年5月26日

経済の見通し

IMF世界経済見通し（25/4月）



(注) IMF25/4月世界経済見通しにおける「参考見通し (Reference Forecast)」。実質GDP成長率。

(出所) IMF

展望レポート（25/4月）

経済の先行き

- 各国の通商政策等の影響を受けて、海外経済が減速し、わが国企業の収益なども下押しされるもとで、成長ペースは鈍化すると考えられる。その後については、海外経済が緩やかな成長経路に復していくもとで、成長率を高めていくと見込まれる。

政策委員見通しの中央値（25/4月）

(対前年度比、%、括弧内は1月からの変化)

	25年度	26年度	27年度
実質GDP	0.5 (▲0.6)	0.7 (▲0.3)	1.0

前提: ①各国間の交渉がある程度進展、

②グローバルサプライチェーンが大きく毀損されるような状況は回避

物価の見通し

消費者物価

展望レポート（25/4月）

物価の先行き

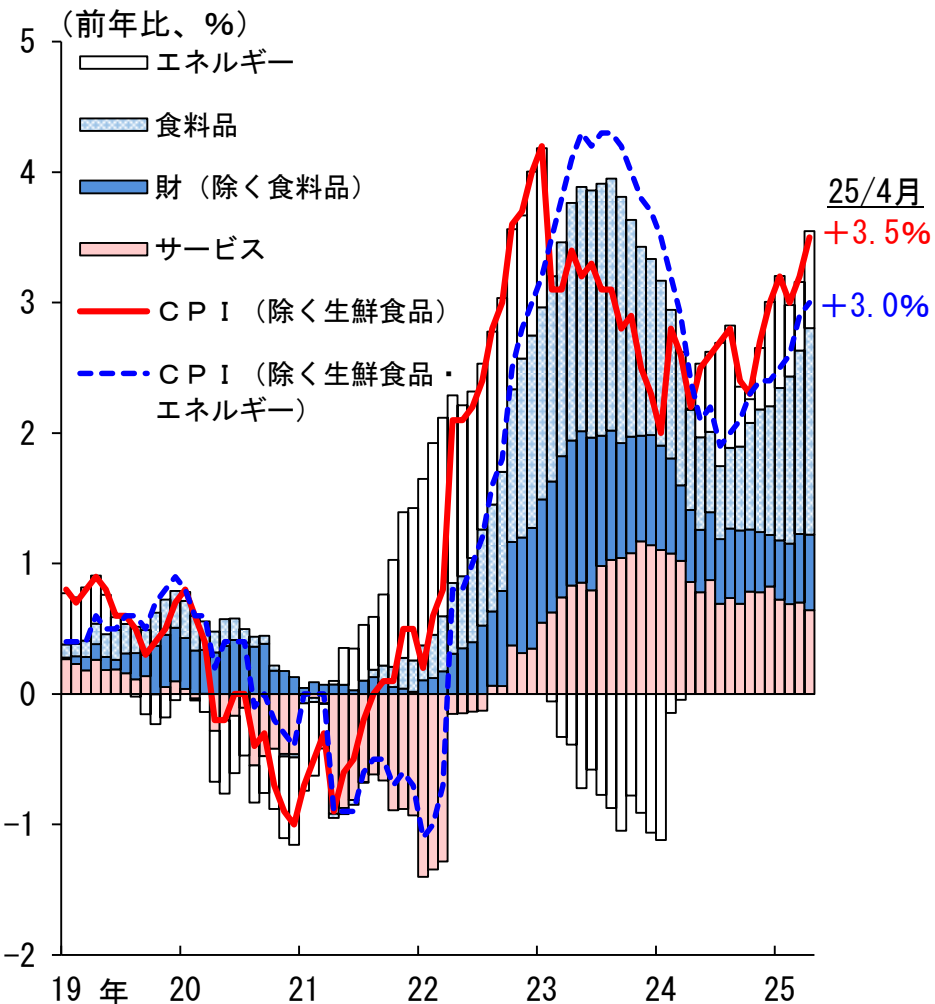
- これまで物価上昇率を押し上げてきた既往の輸入物価上昇やこのところの米などの食料品価格上昇の影響は減衰していくと考えられる。
- 消費者物価の基調的な上昇率は、**成長ペース鈍化などの影響を受けて伸び悩むものの、その後は、成長率が高まるもとで人手不足感が強まり、徐々に高まっていくと予想される。**見通し期間後半には「物価安定の目標」と概ね整合的な水準で推移すると考えられる。

政策委員見通しの中央値（25/4月）

（対前年度比、%、括弧内は1月からの変化）

	25年度	26年度	27年度
消費者物価 （除く生鮮食品）	2.2 （▲0.2）	1.7 （▲0.3）	1.9

前提：①各国間の交渉がある程度進展、
②グローバルサプライチェーンが大きく毀損されるような状況は回避



（出所）総務省

経済・物価見通しのリスク

- 以上のような経済・物価の見通しについては、様々なリスク要因が存在。とくに、各国の通商政策等の今後の展開やその影響を受けた**海外の経済・物価動向を巡る不確実性はきわめて高い**。

先行きの金融政策運営方針

- **金融政策運営**については、現在の実質金利がきわめて低い水準にあることを踏まえると、以上のような経済・物価の見通しが実現していくとすれば、**経済・物価情勢の改善に応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整**していくことになると考えている。
- そのうえで、こうした見通しが実現していくかについては、**各国の通商政策等の今後の展開やその影響を巡る不確実性がきわめて高い**状況にあることを踏まえ、内外の経済・物価情勢や金融市場の動向等を丁寧に確認し、**予断を持たずに判断していく**ことが重要と考えている。
- 日本銀行は、2%の「物価安定の目標」のもとで、その持続的・安定的な実現という観点から、経済・物価・金融情勢に応じて適切に金融政策を運営していく。